

①

創作童話

『どんぐりコロコロ、お山はおおわぎ』

♪ どんぐりコロコロ どんぐりこ

おいけにはまって さあたいへん

どじょうが出てきて こんにちは

ぼっちゃんいっしょに あそびましよう

どんぐりコロコロ よろこんで

しばらくいっしょに あそんだが

やっぱり おやまが こいしいと

ないては ドジョウを こまらせた

(作詞 青木存義 作曲 梁田貞)

どんぐりは、このあと、どうなったのでしょうか。

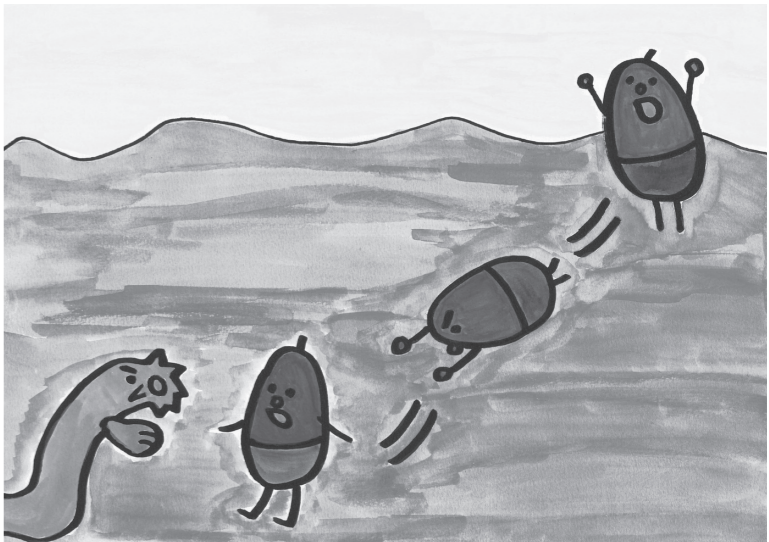
特定非営利活動法人 センスオブアース・市民による自然共生パンゲア

address : 〒174-0063 東京都板橋区前野町4-8-6

tel & fax : 03-3960-6052

e-mail : info@npo-soe.jp

この紙芝居は、東京ガス環境おうえん基金の助成金を受けて作成しました。



②

このどんぐりの 名前は コタロウ。

コタロウは、もぐりのじょうずな ドジョウに
教えられ、もぐったり あがったり しました。

そして、くるしいことも のりこえる 力が
つきました。

でも、やっぱり 父さん母さんや 友達がいる

お山に 帰りたくなりました。

(おじさん)「みんなが 待っている お山に

おかえりよ。いつでも、また 遊びにおいで。」

(コタロウ)「おじさん、ドジョウは 強いんだね。

ぼくも、もう なかないからね。 ありがとう。」



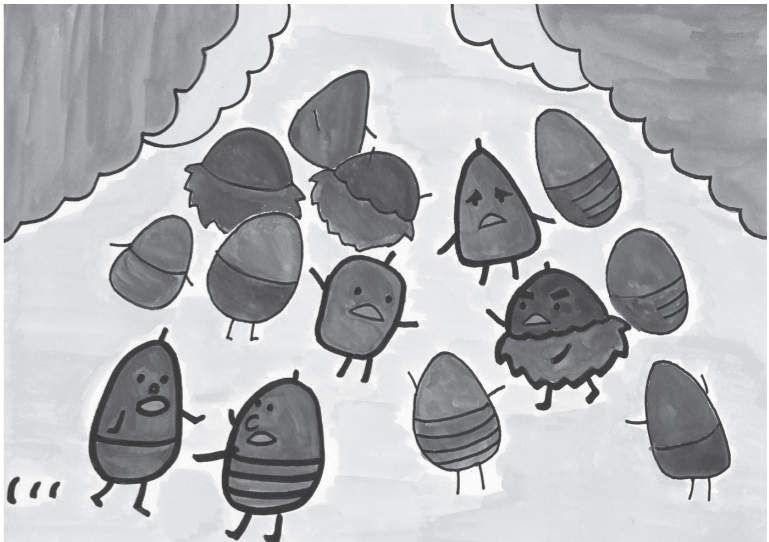
3

コタロウが、池から出てみると、周りの森の木が、たくさんなぎ倒されていました。村の人たちが、困った顔をして、しゃがみ込んでいます。

「あらした、やられてしまった。」

コタロウが、たおれた木のあいだをのぼっていくと、

お山の上が、とてもさわがしいのです。



4

広場には、どんぐりの仲間がたくさん
集まっていて、みんな何か言い合っています。

コタロウは、仲間のどんぐりにそっと
聞きました。

(コタロウ) 「なにかあったの?」

(ともだち) 「この山の木を切って、町を
つくるんだって。どんぐりの木は、たくさん
残せないんだって。コナラやシラカシは、毎年
実をつけるから、どこでも生きていけるって。」

コタロウは、大変だと思いました。

やっと戻ったお山なのに。



5

クヌギの 村長は、 きびしい声で 言いました。

(村長)「わしたち、クヌギは 2回

春が来ないと 実がならない。

育つまで 大変だ。

コナラは すぐ実がつく。

これから どうするか、 明日までに

良い考えを 出すように。」

コタロウたちは、 体中から 力が 抜けて

いきました。



6

つぎの日、お山の広場に、もったくさんの
どんぐりたちが集まりました。

クヌギの 村長は、

(村長)「どうだ？ 良い考えを 思いついたか？」

そのとき、コタロウが 手をあげました。

(コタロウ)「村長さん、ぶつかりっこ代表

どんぐりごま大会を やってください。

勝った方が、山に残るか 残らないかを

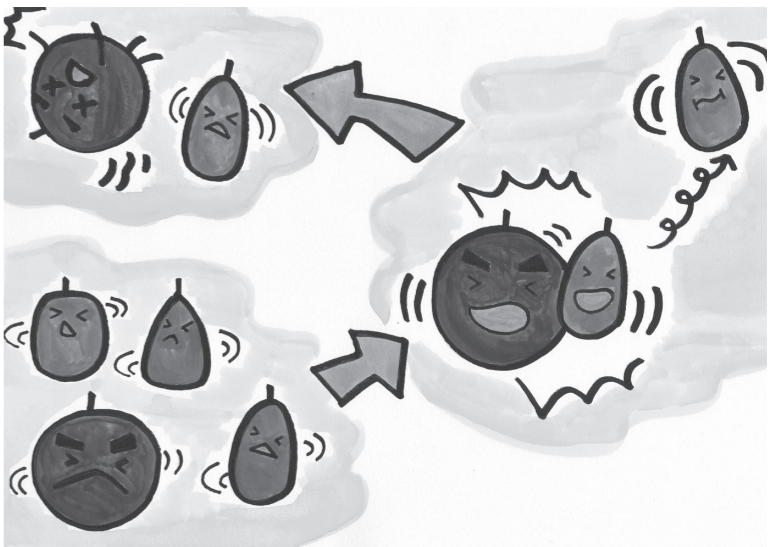
自分で決めていい というのは どうですか？」

(村長)「うん、どんぐりごまは、どんぐりの

自慢じゃし、良い考えだが・・・

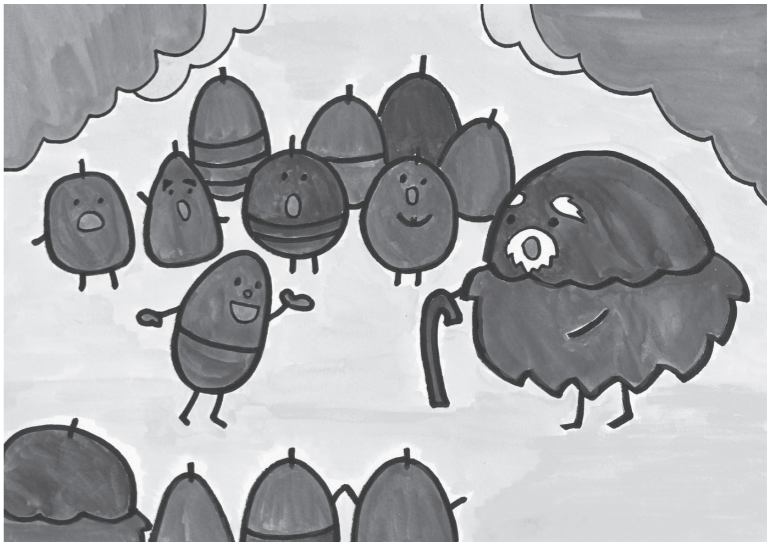
ぶつかりっこしたら、体の大きな クヌギには

勝てないぞ。 それでいいなら やってみよう。」



⑦

どんぐりたちは いっせいに まわり始めました。
丸々とした クヌギたちは、
コロロン コロロンと まわります。
コナラの 代表の コタロウは、 細い体なので、
はじめから スピードを 出して
コロコロローと まわりました。
ところが、 クヌギの方へ、 いきおいよく
カーブして ガチーンと ぶつかってしまいました。
クヌギは 重いので、 コタロウは 広場の
はしの方へ 飛ばされました。
しかし、 必死で まわっています。
そのうち クヌギは まわる力が弱くなり、
ユラユラ し始めました。
ドジョウのおじさんに きたえられた コタロウは
力を ふりしぼっています。
そして、ついに クヌギが コトトンと 止まり、
コタロウは やっと ひとまわりだけ
多くまわって 勝ちました。



8

コタロウは 立ち上がり、
(コタロウ) 「ぼくたちが 勝ったので、
村長さんに お願いします。
山の下の森は、 あらしで 木が みんな倒され、
村の人が 困ってしまいました。 ぼくたちが
行きます。」



⑨

コナラ、ミズナラ、カシワの
どんぐりたちは、
村の森に おりて、
土の中に もぐりました。

何回も 春が来て、
コタロウたちは 大きくなり、
花を咲かせて 秋には
どんぐりが なりました。

コロコロ コロコロと 新しい実が

お池のそばまで やってきて、
声をかけました。



10

(ナラタロウ)「ぼく、コタロウの 子どもの
ナラタロウです。ドジョウのおじさん、
遊びましょう。」

(おじさん)「村の 子どもたちが、
ナラタロウくんたちを 待っているよ。
みんな、 どんぐりが 大好きだからな。」

村の方から、 子どもたちの歌が
聞こえてきました。

♪ どんぐりコロコロ どんぐり
お山は木の実で いっぱいだ

どんぐりコロコロ こままわし
みんなで仲良く あそびましょう

ナラタロウたちは、 子どもたちに 向かって、
一斉に どんぐりコロコロと、 ころがって
いきました。